

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4772600039		
法人名	社会福祉法人 いなほ会		
事業所名	グループホームいなほ		
所在地	沖縄県中頭郡 中城村字添石363番地		
自己評価作成日	平成 25 年 7月19日	評価結果市町村受理日	平成25年10月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4772600039-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成25年8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は山の中腹に位置しており、住宅地とは少し距離がありますが、地域の方々の協力があり交流しながら利用者はゆったりと過ごされている。
 包括、社会福祉協議会、赤十字奉仕団、中学校、保育園などとても協力的で交流しながら、地域と共に過ごすことができる。
 また、法人のバックアップもあり活動や行事なども定期的の実施でき日々サービスの向上を目指している。
 職員は各自、目標を定めており、昨年度は目標にしていた資格の取得を実現した職員が多く、利用者へのサービス向上にむけて、良い結果になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当法人は多様な介護事業を運営している法人である。より地域に密着した事業を目的に「地域たすけあい課」を設置し行政・ボランティア活動推進校・日赤奉仕団や町内の老人婦人会等を通じて、幼児から高齢者に亘る地域住民との連携が豊かである。
 ・当ホームの訪問者は家族親戚以外、広域連合の見学者や包括職員・幼稚園児など訪問者も多い。又、介護度の高い利用者が多数であるが町内のボランティアの協力を得て、職員は行事参加や外出を楽しみながら支援し「利用者と家族が地域で暮らしていける社会」を模索している。
 ・職員は専門性を高める個人努力や法人他の研修会参加にも積極的であり接遇も良質であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成25年9月19日

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示板や申し送り簿など見えやすい位置に理念を掲示しており、意識しやすいようにしている。理念にある、ケア・地域・職員にすることが実施できていると感じている。	理念は開設時に管理者職員で作成し、事業所内の掲示や利用者家族・地域に広報し理解を得ている。管理者職員の異動はあるが「地域に根ざし、じっくり本人を理解し受け入れ・・・や、職員の専門性を高め・・・云々」等、先輩の掲げた理念に共感し支援を展開している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との連携を大事にしている。包括、社協、運営推進委員、赤十字奉仕団、中学校、保育園との交流があり、地域に支えて頂いている。	社協からは車や備品の借用や村内のボランティア推進校との連携・日赤奉仕団による野外活動や外出の支援・婦人会の慰問・保育園の祭り参加や定期的な交流・ボランティア生徒の訪問や支援等、地域住民や行政との交流は多岐に亘っている。	当事業所は現在も村内の住民の多様な年齢層や組織と繋がりを持ち「より開かれた介護事業所として」地域住民の期待に応えている。今後も介護保険変遷の中で「地域に根ざした活動」を模索し高齢化社会の礎になる様期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に出かけ交流することで、認知症になっても地域で安心して楽しく過ごせることを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では地域からの情報があり、外出や活動時の参考にしている。また、積極的に参加していただき行事等を盛り上げて頂いており、一体となってサービスの向上に取り組んでくださっている。	2か月に1回定期的に、入居者家族・地域代表・事業所職員が参加し、毎月入居者の外出・受診・行事・見学受け入れ・研修・会議等の活動実績やサービス向上委員会等の報告・入居者のカンファレンスモニタリング等を別紙で配布し協議を重ねている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	村とは身近な関係で常に連携している。ホームの状況を理解している。また緊急の受け入れなどの相談もあり、協力して地域のニーズに応えている。	包括支援センターから困難事例の夜間対応や社協からのボランティア・研修等の案内がある。又法人・事業所の行事には村長ほか担当職員が参加し挨拶や協力がある。法人内には「地域たすけあい課」があり行政職員等と連携し地域ニーズに対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束しないケアを理解しており、積極的に学習できるよう学ぶ機会を作った。夜間以外の施錠はせずケアを実施している。	「身体拘束をしない」方針を運営規定や事業所内に提示し、入居者家族・関係者の理解を得ている。施錠は家庭と同様に夜間に行い、「遣りたい事・伝えたい事」を支援する声掛けや寄添いに留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が高齢者虐待関連法について、学習することができるように社会福祉について学ぶ機会を作り職員に伝達できるように努めている。		

沖縄県(グループホームいなほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門的に学べるように、学習の機会を作り学んだ。相談があれば支援出来る様にした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書、重要事項説明書を説明しており、同意したうえで捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にはご家族の代表も参加されている。行事や活動にも積極的に参加していただき、家族も一体となって生活を支援していただいている。	入居者は「馴染みの人や場所の中で楽しく過ごしたい」・家族は「入所後も家庭同様に安心して暮らしてほしい」と考えている。居室で家族の宿泊支援や誕生日・自宅でのカジマヤーの祝賀には職員や村長も祝賀参加した。家族会の組織はないが行事の家族参加は多く家族から要望を聞き取り、意見交換している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に定例会議を設けている。行事や活動は職員の意見を元にすることが多い。また、日々の申し送りがあり職員が共に相談し業務内容等を検討している。	月に1回業務改善・サービス向上等の議題で職員会議を持ち、入居者の栄養状態改善を図る為食材や食事形態の検討や夜間緊急時対応を消防署と協議し「夜間の救急搬送時の付き添い」について了解を得た。又職員の体調や資格取得等を考慮した勤務体制や法人内事業所の異動など就労し易い環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者の学業を応援し、職員の資格取得した際にも条件を整備しており、3名合格することができた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は社会福祉学士取得を目指す職員のため、仕事と学業の両立に理解がある。また、認知症の講演会や救急救命講習、指導的研修など、職員の能力に応じて、研修を計画し受講した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での各委員会や研修・研究発表会があり共に学ぶ機会がある。GH大会では他のGHから勉強することもできた。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前に実態調査し、本人や事業所から状況や要望を確認している。後日判定会議を設け、職員間で入居前の準備を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、ご家族と面談を行い要望を確認している。入居初旬には密に連絡し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前に、お試しの期間を作り、在宅サービスを利用しながら、入居の支援を見極めた。支援が上手いきき、利用に繋がった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出かける場所などを一緒に決めながら、共に生活を過ごすようにしている。介護度が高くなるとともに、介護量が増えている方も多くなっている面もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族もとても協力的で、活動や行事に参加されている。行事では三味線を指導して頂き、忘年会で一緒に披露することもでき、他のご家族にも喜んでいただけたり、積極的である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の施設との交流や、姉妹の通っている事業所との交流があり馴染みの関係がある。 活動では婦人会の集いや保育園や中学校など、関係が途切れることなく続いている。	買い物等の外出時に友人知人の親しい呼び掛けがあり、友人宅の訪問や通所利用者の姉妹や友人の交流・利用者の居室で家族親戚が集うなど、馴染みの関係が継続している。又、学校・公園・ひまわり畑等ボランティアの支援も受け訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士はいつも、リビングで共にされている。地域も近く、ご家族同士も関わりがあり共に支援している。		

沖縄県(グループホームいなほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用後の療養先でも家族が、訪ねてくれることが多い年だった。告別式欄にホームへのお礼を添えてくれたご家族もおられ、ケアに関われたことを本当によかったと、職員間で共有できた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前には、ご本人からの聞き取りやご家族、事業所からも聞き取りを行い、状況をより把握し、希望や意向を確認している。	入居者の思いは様々である。「人工透析後は居室でゆっくり休息したい・夕方散歩したい・起床はゆっくりしたい・誕生日外出がしたい・時には一人で座りたい・好きな民謡や歌謡曲等」発言や笑顔・仕草など観察し、家族と調整し入居者の思いや意向に沿うよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には生活歴・成育歴を確認し、利用までの経過や、昔の生活スタイルがホームでも生かせることできるように把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症の周辺症状や、身体機能を勘案し一日の過ごし方について検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議では、ケアについて検討しケアの向上に努めている。また、ご家族とは頻繁に近況を報告し、共にケアを検討している。	介護計画は状態変化時や更新時に入居者家族・関連職員等とサービス担当者会議でニーズや意向を確認し作成している。モニタリングは2か月に1回行い運営推進会議でも報告し、介護計画に挙げた項目毎に介護経過記録に記述し、職員全員が共有した計画の支援状況を確認できるシステムを構築している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録はケアプランに添った記録も実施し、気が付いたことは職員間で申し送り時にその都度、情報交換しケアの見直しに繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や相談に応じて、お試し利用を実施しニーズに合わせたサービスを実施して入居サービスに結び付いたケースがある。		

沖縄県(グループホームいなほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めている。包括や社協とも密に連携し、法人も地域と過ごすことを掲げており豊かな生活を目指している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より、通っていた病院に通院している方が多い。通い入れた病院に行けるように支援している。	通院は家族対応で、通院時には介護サマリーを医療機関用と家族用と2枚渡している。状況に変化のある場合には、病院や看護師から文書にてお知らせが届くようになっている。認知症専門医への受診や、訪問歯科、訪問皮膚科を受信している入居者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の事業所には多くの看護職が配置され、普段の状況を相談することができる。また、積極的に勉強会を開いてくれたくさんの事を教えて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院に入院することがあり、入退院の際には地域連携室のSW職員が調整を手伝って下さりいつもスムーズに連携できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、ご家族と相談し病院や老健、療養型病床と連携し取り組んでいる。	事業所の方針を入居時に本人、家族へ説明をしている。状態変化に応じて家族と話し合いを持ち、療養型病床への入所や、併設の老健、特養への入所を連携して進めているが、事業所内の急変等に応えるため、ターミナルのマニュアルを準備し、職員研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時の対応について検討している。また、救急救命講習を受講し実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、訓練を実施している。 学習会、消火訓練、避難訓練、召集訓練等を実施。また定期的に勉強会も設け、設備についても把握するように努めている。	消防署の協力のもと6月、11月を防災月間として、日中夜間総合避難訓練を実施している。自治会やタクシー会社とも協力関係ができていて、訓練にも参加している。また、地域の災害弱者の受入を行う旨の協定を村と結ぶなど、法人が防災協力建物となっている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、その人をとらえ尊重している。職員はコミュニケーションを通して、仕事や子育ての話を聞きながら尊敬の念を伝えるようにしている。	入職時から定期的に言葉づかいやプロの接遇の研修を受け、入居者のペースに合わせた介助に努めている。自分で食事を採りたい方には、自助食器のワンプレートにして提供し自力で食べられるよう配慮している。裁縫や洗濯物たたみ、アイロンかけ等の手伝いをお願いしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の介護度が高くなるとともに、自己決定の表出が難しくなっている面もみられていますが、自己決定していただけるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に合わせ、離床の時間などペースに配慮しました。個人に合わせて検討している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所前から愛用されていた、衣服を持って来ていただき、変わらない生活を支援している。また、定期的に訪問美容室を利用しており、パーマやカラーを希望される方が多く、身だしなみを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングにキッチンがあり、共に食事を作る工程を楽しまれている。野菜の下ごしらえや、食器拭きを行われ手伝われている。	法人の管理栄養士が献立を考え、事業所で職員が3食手作りしている。入居者の希望で冷し中華をおやつにしたり、ヒラヤーチーやアイスを入居者と一緒に作っている。新鮮な刺身は当日の朝に届けられ食卓に上がっている。ウンケーじゅーしいーやムーチーなど季節感を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士に献立を頂き、食事を提供している。個人の状態に応じて透析食を提供し、栄養のバランスや水分量を徹底している。職員は透析食に関する知識も学んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて、毎食後の口腔ケアが行われている。義歯の消毒も徹底されている。また、状況に応じて訪問歯科の先生に診てもらっている。		

沖縄県(グループホームいなほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用状況をご家族と確認しながら、排泄の状況をその都度説明している。 また、介護度の高くなった利用者に対してもトイレ介助の機会を設け、起立運動の機会も兼ねている。	排泄チェック表で、タイミングをみてトイレへ誘導している。要介護度の高い入居者が多いが、昼間は綿パンツにパットを使用し、起立運動、歩行の機会にしている。夜間はオムツ利用が多いが、尿意の訴えがある時は、トイレでの排泄をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の排便の状況を毎日把握している。便秘傾向がある方には、水分補給や運動・オリゴ糖など、本人に合わせた支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日入ることができる。希望のある方は毎日入浴されている。外出や病院の日に合わせ、個々に添った支援をしている。	入浴を拒否する方もなく、毎日入浴を楽しんでいる。入居者は希望でシャワー浴であるが、浴槽も設置され、室温管理の冷暖房も備えられている。風呂上りにクリームを上手に塗る方もいて、入居前の習慣を継続できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングで過ごしていただくことが多いが、個々の状況に応じて休息や午睡の時間を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬を把握し、管理している。定期受診のたびに、処方内容をご家族と確認し、変更時は職員間で申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護度の高くなるなかで、本人の力量に合わせた活動をしている。(現在はもやしのひげとりや食器拭きなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的な外出は実施できていない。 定期的に外出の機会を設け、出かけている。また、周辺の散歩を行い気分転換している。	家族やボランティアの協力で、海や公園、足浴、花見、ランチバイキングや事業所から手作りのお弁当を持参してピクニックを楽しんでいる。気分転換にベランダに出てお月見して外気に触れる支援をしている。今後は帰宅支援に取り組みたいと考えている。	入居者の長年住み慣れた家や地域へ戻ることの要望を、家族や地域と連携し、帰宅支援の実現に向けての取り組みを期待したい。

沖縄県(グループホームいなほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族が行っている。 利用者に応じてご自分で管理していただいている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に本土の子供から利用者に連絡がある。 その都度、電話まで案内し会話の時間を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間であるリビングはとても眺めがよく、季節に合った壁画の前で過ごしていただいている。毎月、職員と壁画作りを楽しまれている。	事業所は高台にあり、リビングからは太平洋の海が臨め、1日2回は窓を開け空気の入替えをし、気分転換にベランダに出て外気に触れる支援をしている。利用者の状態に応じて、食卓の向きやソファの位置を変えている。壁には毎月季節に合った作品(鯉のぼり、七夕等)を手作りして飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場でも一人で過ごされる方がおられ、安心できるように環境を整えている。 (キッチンで職員と過ごされます)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人やご家族が心地よく過ごせる様に、使い慣れた家具など自由に持ち込みしていただいている。ご家族と一緒に過ごせる様に、泊まる事も可能で簡易ベッドを持ってこられ定期的に泊まられるご家族もいる。	入口には表札が掛けられ、居室には、備え付けの洗面台が設置されている。手作りの椅子や、ソファ、鏡台、琴など馴染みの物が持ち込まれ、家族写真が飾られている。季節ごとに家族と共に衣類を整理する方や居室に入居者と共に泊まる家族もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせて、表示を工夫している。トイレや居室が分かりやすいように、掲示している。		